



↑金田一区芸能保存会のみなさんによる稲荷神社奉納獅子楽。



↑中城村の交流事業参加児童によるエイサー。

少年の翼

福智中城

／ 兄弟都市 ／

交流事業

平成7年に始まり今年で28年目を迎える福智町と中城村の交流事業。過去2年コロナ禍により中止していた福智町への中城児童の受入れが今年1月に3年ぶりに実現しました。

コロナ禍で途絶えた交流。待望の受入再開——

交 流事業では、こどもたちの感性を伸ばすことを目的に、福智町内にこだわらず広く福岡県内を案内し、様々な体験の場を提供。福岡到着初日、太宰府天満宮や到津の森公園を訪問した中城のこどもたちは、ふくちのちを見学後、地域交流センターでホストファミリーとの対面式に臨みました。対面式では、互いに伝統芸能のエイサーと獅子楽を披露し、夏以来の再開を祝しました。中城村のこどもたちは、夏に受入れた福智町のこどもたちの家にステイ。3日間を共にし、さらに互いの理解を深めました。

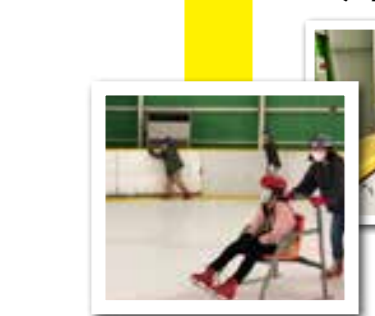
さらに深まる交流。新たな絆を紡ぐ——

交 流2日目、こどもたちは、福智町で餅つきと上野焼の作陶を体験。中城のこどもたちは、つきたて餅に「沖縄の餅よりももちもちしていて美味しい」と舌鼓を打ち、作陶体験では、「粘土をこねるのは大変だけど、物ができるのは楽しい」と達成感を愉しみ、福智のこどもたちは、「中城の子に上野焼を紹介できて嬉しい」と誇らしげ。濃密な3日間を過ごし、交流を深め、少しだけ成長したように見えるこどもたち。別れを惜しみつつ再開を約束し、中城のこどもたちは福岡を後にしました。福智町と中城村では来年度文化交流だけでなく職員を相互に派遣する人事交流も予定。新たに絆を紡いでいきます。

11 福岡を立ち沖繩に帰還。



10 南蔵院の涅槃像を参拝。



中城村子ども会育成連絡協議会 会長 前原みのりさん
交流事業は、子どもたちのリーダー養成の他、地元文化の価値が再発見できる機会でもあります。自分たちにとっては当たり前で気にも留めていないような部分を、外部の人に褒められ、地元文化の良さに気づかされる可能性があります。こういった気づきを、伝統文化の継承に生かしたいと思います。

福智町沖繩交流事業実行委員会 実行委員長 永末信一さん

この2年コロナ禍で受入れができず、せつなく28年かけて築いてきた絆がこのままでは断ち切れてしまうのではと思うと気が気ではありませんでした。だから今回は絶対に受け入れたかった。新型コロナウイルス第8波の最中で開催が危ぶまれる中、受け入れが実現し感慨も一人。今後もこの絆を強め、交流を深めて行きたい想いです。

9 英彦山に雪はふらなかつたけど、アイスバレスでスケートを体験。

8 プロの窯元のサポートで上野焼づくりに挑戦。



6 中城村と福智町のこどもが力を合わせて餅つき。



7 つきたて餅できな粉餅や苺大福をつくって堪能。

4 ホストファミリーと対面。夏以来の再会に感激。



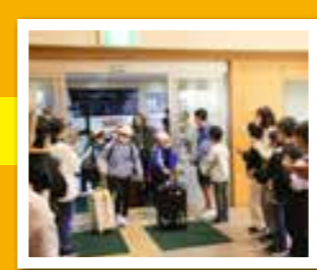
福智町にめんそーれ (ようこそ)



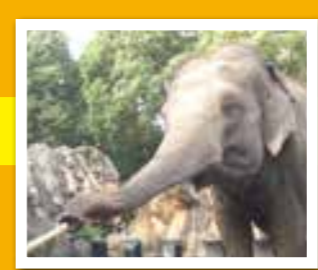
はいさい (こんにちわ)



3 ついに福智町に到着！



2 到津の森公園を見物。



1 太宰府天満宮で悠久の歴史を学習。

